

3月7日、「架け橋 交流会&勉強会」で『聴覚障害について』学びました。

聴覚障害の方たちの中には生まれつき音が聞こえなかった人と、人生の途中で病気などにより音が聞こえなくなった人がいます。

私たちにとって、聴覚障害の方のコミュニケーション手段として真っ先に思い浮かぶのが、手話です。しかし、聴覚障害の方がすべて手話を使うわけではありません。以前は口の形を見て言葉を読み取るという方法が主流でした。

また、途中で聴力を失った方は手話を覚えきれていない方もいます。途中で聴力を失い文章力のある方たちは「要約筆記」や筆談が有効なコミュニケーション手段の場合があります。

ですから、聴覚障害の方と接するとき、もちろん手話を覚えるということは大事なことです。「私は手話ができないから」としり込みするのではなく、紙に書いて伝えるなどいろんな方法があることを覚えておいたらいいいと思います。

聴覚障害の方はすべて音が聞こえないわけではなく、人によってそれぞれに聞こえの程度が違います。補聴器をつければ普通に会話のできる人から全く音の聞こえない人まで様々です。

その人に合ったコミュニケーションをとることが大事だと思いました。

耳が聞こえなくて困ることは、駅などのアナウンスが聞き取れないことだそうです。特に、普通に列車が運行しているときはよいのですが事故等でダイヤが乱れたり、乗り場が変わったりした時に音声での案内だけでは分からず取り残されることがあるそうです。私たちも聞き逃した時に表示があれば、と思いますが聞こえないからこそ『目で見える情報が欲しい』ということでした。特に、聴覚障害は見た目には解らない障害ですので、何か問題が起きた時に注意深く周りを見渡し、障害のある方を見かけた時は、手話・筆記・身振りなどで、兎に角、知らせることが重要だと思いました。

歴史遺産「北九州市レトロ」を創る会

折尾は、「学園都市」と呼ばれ、大学5校・高校4校がありますが、「東筑高校」と「産業医科大学」以外は、すべて私財からつくられました。

街づくりをするには「若者・よそ者・ほか者」が必要で、折尾の先人は、街を継続的に繁栄させるために、人は変わっても常に「若者」や「よそ者」が居る「学園都市」を創りました。

かつて折尾が「遠賀の都」として栄えた頃の遠賀郡は、現在の遠賀郡の他、北九州市の戸畑区付近までありました。折尾は、遠賀郡の中心であり、鉄道が「日本で最初に立体交差(鹿児島本線と筑豊本線)」をし、交通の要衝になりました。

- 「**東筑尋常中学校(現、東筑高校)**」(1898年・明治31年)遠賀郡八幡村に、官営八幡製鐵所が建設されることになり、優秀な人材を育成することが急務となり、東西南北から人を集められるということで、折尾に、福岡第一号の県立ができ、現在も優秀な人材を輩出。
- 「**折尾高等女学校(現、折尾高校)**」(1918年・大正7年)女子にも学問を!と、三好炭鋳の三好セキ女史が私財で創立。
- 「**折尾高等簿記学校(現、愛真高校・愛真短期大学)**」キリスト教に基づく精神教育と商業科を中心とした職業教育での人材育成を目的に、増田氏が私財で創立。(1935年・昭和10年)
- 「**福原学園(現、自由ヶ丘高校・九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学)**」一貫した教育を目指す総合学園が必要だと、福原氏が私財で創立。(1947年・昭和22年)
- 「**産業医科大学**」を誘致。(1978年・昭和53年)

小泉前首相で「米百俵の精神」が有名になりましたが、折尾の先人の知恵や想いはこれ以上だと思えます。折尾にとっての誇りです。折尾総合整備事業で、先人が苦勞をして折尾の街に集積させた数多くの公共機関が折尾の外に移築し、折尾は衰退の一途を辿っています。

今こそ、「先人が、残した歴史や文化を後世に継承することが、折尾の活性化や温かなコミュニティを取り戻すことになる」と思い活動をしています。

《 住む人に誇りを! 来る人に感動を! 歴史遺産を活かしたまちづくりに! 》